授業科目名	教育カウンセリング	単位数	2
担当教員名	斎藤　やす子・石塚　勝郎・ 小嶋　義勝	担当形態	オムニバス
実務内容 （実務家教員の場合）	石塚勝郎：日本教育カウンセラー協会　上級教育カウンセラー 斎藤やす子：同上協会　上級教育カウンセラー　高等学校国語科教員 小嶋義勝：札幌大学　教授		

「学位授与の方針」との関係
本科目は、ディプロマポリシーA～F すべてに関連する。

授業の到達目標及びテーマ
次の項目について理解を深める。
（１）教育カウンセリングの原理と基礎
（２）カウンセリングの理論と技法
（３）教育カウンセリングの方法から子供の支援を考える
（４）教育カウンセリングの扱う領域と支援体制の連携の実際

授業の概要
現在カウンセリングはあらゆるところ（教育現場をはじめ、産業、地域、福祉、医療機関、司法警察等）に普及し、また社会の中で重要な位置づけを担っている。特に一向に減らない子どもたちの自殺は深刻な問題であり、教育現場や子供たちに関わる大人たちがこの問題にきちんと向き合い、子どもたちに適切な形で関われる力をつけることが急務である。
　本講では、日本教育カウンセラー協会編の『教育カウンセラー標準テキスト　初級編』に基づき、「教育者だからこそできるカウンセリング」を念頭に特に教育の場でのカウンセリング、「教育に役立つカウンセリング」を学ぶことを目的とする。
教育の場とりわけ学校は、子どもを「育てる」ところであり、学校という集団の中での子どもの様子と個としての子どもそのものをわかろうとする姿勢が大切である。さらに、「育てる」とはどういうことかを、キャリア発達や問題行動等を通して具体的に学んでいくことをねらいとする。
　また、本講では「構成的グループエンカウンター」の体験を通して自己理解・他者理解といった人間の心を多角的に見つめる資質を高め、教育者だからできるカウンセリングについて考えを深めていく。

授業計画
第１回：学校におけるカウンセリングとカウンセリングマインド　カウンセラーと教師の役割
第２回：子どもに関わる者の自己理解と他者理解の理論と実習
　　「構成的グループエンカウンター実習
第３回：教育カウンセリングの基本的態度
第４回：教育相談面接の理論と実習１　基礎編
第５回：教育相談面接の理論と実習２　応用編
第６回：サイコエデュケーションの実際　理論編
第７回：サイコエデュケーションの実際　実技編
第８回：教育的ニーズのある子どもの理解と指導、支援（理論）
第９回：教育的ニーズのある子どもの理解と指導、支援（実践）

第１０回：不登校、いじめの理解と支援
第１１回：チーム支援の考え方
第１２回：特別支援教育の支援システムとの連携
第１３回：学校における活動の実際　教育カウンセリングと進路指導
第１４回：学校における活動の実際　教育カウンセリングと学級集団経営
第１５回：まとめ
定期試験

スクーリングでの学修内容
スクーリングでは教育に役に立つカウンセリングを学ぶことを目的として、カウンセリングの理論と技法を学ぶ。また、自己理解、他者理解のための実習や集団体験を行うことで学校現場でのカウンセリングに役立つ経験を積む。（主に第２回～第９回の内容を含む。）
「アクティブラーニングの手法も用いて実施」

教科書
日本教育カウンセラー協会（２０１３）『教育カウンセラー標準テキスト（初級編）新版』図書文化社

参考文献
（１）國分 康孝・片野 智治（２００１）『構成的グループエンカウンターの原理と進め方 リーダーのためのガイド』誠信書房
（２）片野 智治（２００９）『教師のためのエンカウンター入門』図書文化
（３）河村 茂樹（２００２）『教師のためのソーシャルスキル』誠信書房
（４）石隈 利紀（１９９９）『学校心理学』誠信書房
（５）佐々木正美（２０１２）『あなたは人生に感謝できますか』講談社
（６）大村はま（２００４）『灯し続けることば』小学館
（７）平木典子（２０１５）『アサーションの心』朝日新聞出版
（８）平木 典子（２０１３）『図解　相手の気持ちをきちんと＜聞く＞技術』ＰＨＰ出版
（９）平木 典子（２００７）『図解　自分の気持ちをきちんと＜伝える＞技術』ＰＨＰ出版

学生に対する評価
レポート評価（２５％）、スクーリング評価（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合評価する